

2012/8/30
第40号
(24年8月号)

しののめ



長野県総合教育センター通信

〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

教職教育部長あいさつ

大井 基成

4月に着任いたしました。よろしくお願いいたします。
略称『もしドラ』で人口に膾炙することとなったマネジメントの大家、ドラッカーがこんなことを言っています。

部下は上司に対して、無能だとか、無知だとか、自信の無さだとか、あるいは不作法だとかについては大目に見てくれるかもしれない。しかし、真摯さ(integrity)の欠如は許さない。

強引な置き換えになりますが、部下を子どもや保護者、上司を教員と換えても同じことが言えるのではないのでしょうか。もちろん、教員が無能でも不作法でも困ります。広い教養と深い知識があり、態度も好ましい人物が求められます。でも、“あの先生ピアノは上手だけど算数苦手らしいよ”や“あの先生どうも口が悪い”といった評判は、“まあ仕方ないかもね”と大目に見てくれる場合もあります。しかし、それは基本的な資質としての真摯さがあってのことであり、真摯さの欠如そのものは、ドラッカーの指摘の通り、許し難いこととなります。

4月以来教員の不幸事、とりわけセクハラに係る非違行為が続き、県民の多くが“何をか言わんや”の心境になっています。教育に対する人々の信頼が揺らいでいます。否、信頼という基盤がガラガラと崩れてしまいました。

子どもが安心して学校に通う、また、子どもを安心して学校に預けることの前提が教員に対する信頼であり、その信頼とは、即ち、教員の真摯さに対するものだと思います。崩れた信頼は容易には取り戻せません。総合教育センターもこの状況に正面から向き合い、信頼回復に向けて研修機関として何が出来るかを真剣に考えなければならないと思っています。そのためにも、研修のあり方について、研修時の講座アンケートへの記載も含めて、是非とも忌憚のないご意見をお寄せ頂ければと存じます。



総合教育センターに「わざまる」来訪!!

8月6日(月)から8日(水)、当センターを会場に「ロボフェスタ in 長野」(主催:信州大学教育学部・技術教育講座)が行われました。

「ロボフェスタ in 長野」は県内中学生による2泊3日のロボット製作キャンプ。最終日8日の表彰式には長野技能五輪・アビリンピック2012公式キャラクターの「わざまる」がやって来ました。



公式ホームページによると、諏訪湖花火大会など県内の様々なイベントに“出沒”しているそうです。

(右)華麗にポーズを決める「わざまる」
おなかのポケットにも注目!



センターからのお知らせ

☆「信州クールシェアスポット」(実施期間：～9月30日)



総合教育センターは「信州クールシェアスポット」に登録されています。
まだまだ暑い日が続きます。どうぞお気軽にご利用ください。

☆「追加募集講座一覧」センターHPに掲載中



追加募集中の講座一覧がセンターHPでご確認いただけます。
このセンター通信「しののめ」でも随時お知らせしますので、ご確認の上
所定の手続きに従いお早めにお申し込みください。

今からでも間に合う研修講座(9月・10月開講の講座)

平成24年8月20日 現在

講座番号	講座名	対象	開始日～終了日	募集人数	講座PR
1 教科等研修					
3-1-03-28	算数的活動を生かした授業	小特	10月2日	3	算数的活動を生かした授業について、実践発表などを通して具体的に学び合います。
3-1-07-04	中学校・高校音楽基礎Ⅱ	中高特	10月30日	4	鑑賞や創作分野、和楽器を取り入れた音楽の授業を中心に学びます。
3-1-09-24	実践する力を高める家庭科	小中高特	9月25日	5	実践力を育むために必要な実生活と関連を図った問題解決的な学習の充実を目指します。
3-1-10-24	教材観を変えるエネルギー変換の学習	小中高特	9月7日	4	エネルギー変換や材料と加工、知財の学習まで可能なロボコンについて学びます。
2 教育課題別研修					
3-2-08-26	教務主任のための学校組織マネジメントⅢ	小中高特	10月16日	9	様々な“連携”の取組事例や演習を通して、特色ある学校づくりのヒントが得られます。
3-2-03-21	学級担任の読書支援	小中高特	9月20日～9月21日	20	“読む力”、“調べる力”の育み方を実践的に学べます。一日のみ受講希望の方は事前に御相談ください。
3 情報教育研修					
3-3-04-22	グループウェアの導入と利用	小中高特	10月18日	5	情報共有を図るための、グループウェアの導入方法を学びます。
3-3-04-23	ファイルサーバの活用	小中高特	10月25日～10月26日	7	ネットワーク技術の応用講座です。アクセス権やグループポリシーの考え方など現場技術者からの指導を受けます。
4 産業教育研修					
3-4-10-02	専門教育の基礎と教科指導	職業科	9月28日	16	講演や実践発表を通して専門科目の指導法について学び合います。
3-4-10-21	専門教育の充実と改善	職業科	10月11日	15	専門教育の現状を理解し、様々な実践を通して専門教育の活性化に向けた取組を考えます。
3-4-12-02	工業科目に活かす環境教育	高工(基礎)	10月5日	7	産業現場におけるエコロジー事業の具体的な実践事例を学び、工業科目における環境教育について学びます。
3-4-13-22	原価計算・工業簿記の効果的指導法	高(商)	9月13日～9月14日	5	実務で活用できる能力を身につけるために必要な、思考力・判断力を高めるための指導法を学びます。
3-4-15-02	教科「福祉」教材研究と指導法	高(福)	9月7日	1	授業見学、実践発表、研究協議により、専門教科「福祉」の各科目における指導力と実践力を身につけます。
5 生徒指導研修					
3-5-02-07	協働的生徒指導とミドルリーダーの役割	小中高特	9月13日	14	生徒指導が組織的に機能するための連携・協働のあり方について学びます。
6 特別支援教育研修					
3-6-02-12	自・情障学級における教科指導	小中	10月5日	5	中学校の先生方は、国教英の各教科専門主事を含めた協議の時間を設けています。
3-6-02-31	コミュニケーション支援機器の活用	特	9月13日	6	VOCAを作り、活用のための演習を通して、支援機器活用の実践力を高めます。
3-6-02-32	特別支援学校(知障)教育課程の編成	特	9月7日	17	合わせた指導(遊び・生単・作業)、教科別の指導、自立活動等について学びます。
【特別講座】センター研究発表会					
(詳しくは「研修講座案内」81ページをご覧ください。最新情報は随時当センターHPで紹介します。)					
5-1-01-01	センター研究発表会	幼小中高特	2月22日	199	大会テーマ 「伸ばそう信州の教育～学校の教育課題に対応する教員の組織力・指導力向上のために～」

追加募集は10日前まで受け付けています。
センターHPで確認して電子申請で申し込みをお願いします。

研修講座探訪

7月～8月に行われた希望研修講座を紹介します。

【子どもと築く豊かなコミュニケーション ～インリアル・アプローチ～】

INREAL 《インリアル》： Inter Reactive Learning And Communication
子どもと大人が相互に反応し合うことで、学習とコミュニケーションを促進しよう！

講師：大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類 准教授 里美恵子

7月23日（月）実施 （73名受講）

INREALは1974年に米国コロラド大学のR.Weiss（ワイス）博士によって開発された就学前の言語発達遅滞児のための学習とコミュニケーションへのアプローチです。日本には、1979年に大阪教育大学の竹田契一教授により紹介され、言語聴覚士や教員を中心に



実践的研究が続いています。日本では、INREALがコミュニケーションアプローチとして注目され、導入当初に比べ、対象とする子どもの年齢や障害の程度において様々な段階へのコミュニケーションアプローチとして幅を広げています。INREALでは、ことばに課題のある子どもにのみ焦点を当てるのではなく、かかわる大人の「かかわり方」をビデオを用いて検討を加えていくビデオ分析により、大人が子どもとよりよく反応することを学びます。大人のかかわり方を改善することで、子どもがコミュニケーションできる喜びを感じ、もっと伝えたいという意欲を持つことができるようにします。それにより子どもと大人両者のコミュニケーションを、より楽しく、より伝わるものに変えていくことをねらっています。

<講座の内容>

- ①インリアル・アプローチ概論
- ②コミュニケーションの4つの段階
- ③インリアル・アプローチの分析方法
- ④トランスクリプト演習



【インリアル・アプローチで使われる言語心理学的技法】

ミラリング：子どものしている動作をそのままねる。
モニタリング：子どもの音声をそのままねる。
パラレルトーク：子どもの行動や気持ちなどを言語化する。
セルフトーク：大人自身の行動や気持ちなどを言語化する。
リフレクティング：子どもの様々な言い誤りに対して、正しく言い直して返す。
エキスパンション：子どもの言った言葉を意味的あるいは文法的に広げて返す。
モデリング：子どもの話題に沿いながら子どもの使うべき行動やことばのモデルを示す。

<受講者の感想から>

- ・コミュニケーションの基礎に基づいた概論で大変わかりやすかった。
- ・多くの動画・事例からの演習を通し、「インリアルアプローチ」の考え方について学ぶことができ良かった。
- ・ビデオを使い、子どもの気持ちや意図を考えるというビデオ分析は大切だと感じた。
- ・「インリアルアプローチ」は年齢、障害の有無にかかわらず大切な考え方だと感じた。
- ・中学生くらいの事例についてもっとお聴きしたかった。とても興味深く役立つお話でした。

情報教育研修講座「情報モラルA・B」

【すべての学校で、すべての先生が情報モラル指導をするために】を目標に、従前の先生方自身の情報モラル研修から一歩進め、校内研修会を実施するための実践力を身につけることをねらいとし、6月14日(木)と8月1日(水)に「情報モラルA・B」講座を実施しました。

午前中は情報モラル・情報セキュリティの基礎とその指導の要点、および最近普及してきたスマートデバイスの現状と問題点について講義を行いました。

午後は情報モラル教育教材資料を用いた校内研修教材開発実習を行い、先生方が校内研修会を実施することを想定して、「対象(児童・生徒・保護者・職員等)」・「場面(全校・学年・クラス・PTA総会・職員会等)」・「研修時間」などを各自で設定・想定して、スライドや資料の作成を行い、全員で作品発表会を行いました。

受講者からは、「生徒のネット利用の実態について概要を知り得たと思う。」「多くの教材を提供していただき、職員研修をする準備ができた。校内研修会を実施したい。」「自分で場面を設定して教材化することでより明確に焦点を絞ることができ、伝えたい部分がはっきりしました。」「他の先生方の教材作品発表を見ることができてよかった。」といった感想があげられ、講座のねらいとしていた校内研修会実施のための一助とすることができました。



放射線の理解と学校の安全管理

8月22日(水)に「放射線の理解と学校の安全管理」を実施しました。昨年の福島第一原発事故の発生をうけて、学校生活の安全や児童、生徒および保護者の安心を確保し、差別や風評被害を防ぐにはどうすればいいかを考えました。

午前中は、放射線の基礎知識の講義の後、長野県危機管理部危機管理防災課危機管理係の小泉寛担当係長から、国や県の原子力災害対策の現状をお話いただきました。

午後は、「放射線になんか、まけないぞ!」の著書で知られる福島県郡山市立赤木小学校の坂内智之教諭から、震災直後の避難所での学習や小学校での放射線教育の実践、放射線教育の重要性や可能性についてお話いただきました。そのあと、グループに分かれて放射線教育にどう取り組むか協議しました。放射線に詳しくなくても、児童生徒と共に学び、理科教育だけでなく人権教育や社会教育の教材にできると実感できました。



【受講者の感想から】

福島の子供達の様子をお聞きし、私が思っている以上に、しっかりと元気に生活していることに感動しました。災害を教訓にしっかりと勉強し、力強く生きることを生徒達に伝えたいと思います。自分達もそうなって欲しいと思います。

坂内教諭の助言で協議

「信州“Basic”」ご活用下さい！

～研修講座での活用例紹介～

当センターの講座に参加された先生で、ご希望の方に配布している「信州Basic」。

「校内の研究会で読み合わせをした」「日報の裏面に1ページずつ紹介されている」等の声が届いています。研修講座においても、「信州Basic」を用いた講義や演習が行われており、その一例を紹介します。

講座名 中学校英語基礎Ⅰ（平成24年7月17日）

<講座の概要> I 講義

「学習指導要領改訂のポイント」

II ワークショップ

「ねらいと評価」

III 演習

「2学期に生きる教材研究」

<参照した信州Basicのページ>

I 講義 「学習指導要領改訂のポイント」

II ワークショップ 「ねらいと評価」：「信州Basic」<授業編> p.10,11,14



信州“Basic”表紙

授業の終末段階では 何をしたらいいんだろう…

振り返りの時間を確保し、一人一人の子どもに学習内容が確実に定着しているか（ねらいが達成されているか）の見とどけと、評価に基づく個に応じた指導をしましょう。

「指導と評価の一体化」って どういうこと？

指導と評価は別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらにその後の指導の結果を評価するという連続的な営みです。指導に生かす評価を充実させることを「指導と評価の一体化」と言います。「座席表」を使って、机間指導による評価と指導を継続させ、充実させるた

「評価」「評価規準」「評定」？ 実はよくわからないなあ…

評価には、「めりはり③」（p.10）のような「評価したことをその場での指導に生かすもの」と、単元（題材）の最後、学期末や学年末に行う「評価結果を記録に残すもの（評定を決めるもととなるもの）」があります。どちらの場合も、「評価規準」の設定の仕方が重要なカギとなります。

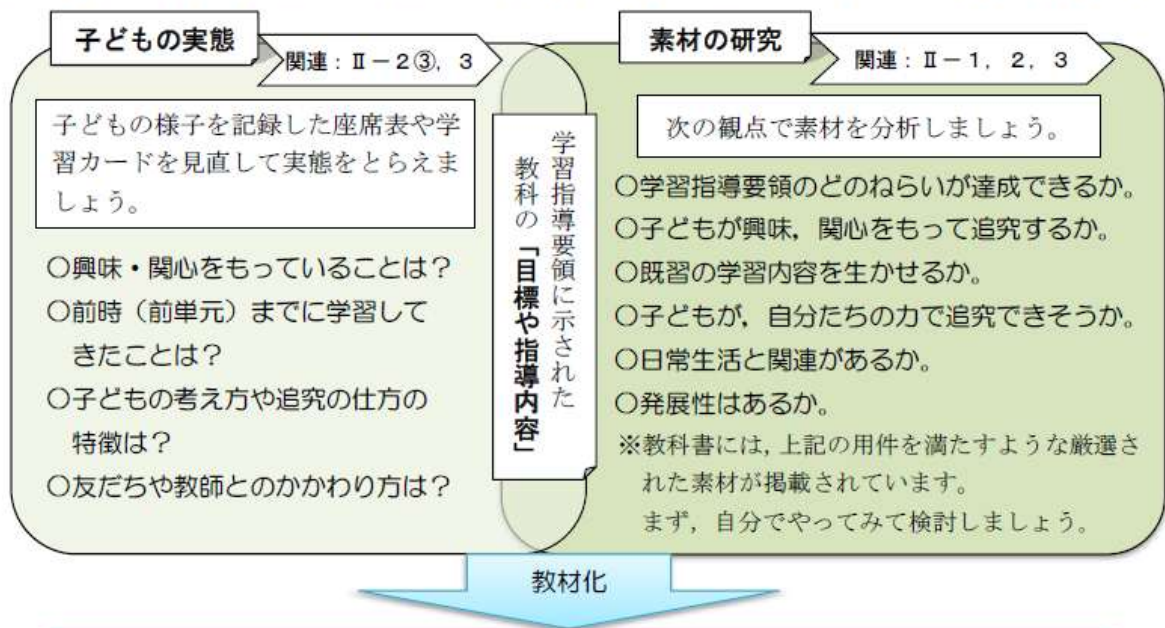
学習指導要領や「評価の観点及びその趣旨」（文部科学省）等の資料に「信州Basic」の内容を関連付けて読み合いました。それぞれの「つける力」に対してねらいの達成を見とどけるためにはどのような活動がふさわしいか、考え合うことができました。

「教材研究」って 何をすればいいの？



「教材研究」とは、「子どもの実態」「目標や指導内容」「素材の研究」の三つをもとに教材化を図り、指導方法を構想する一連の過程のことです。ここでは、それらの内容と相互のかかわりについて考えてみましょう。

○「子どもの実態」と「素材の研究」は、その単元（題材）や授業の「ねらい」に照らして行います。



子どもの実態と素材の研究を踏まえ、目標や指導内容を達成するために授業を構想しましょう。

- ① 素材の何に着眼し、どのような追究を促すかの決めだし
[素材のどこに注目させ、どのような学習問題（課題）で追究を促すか] 関連：Ⅱ-1, Ⅲ-1, 2
- ② 学習場面の構成 [どのような学習過程をたどればよいか]
- ③ 学習形態の決めだし [個人追究か、グループ学習か、全体追究か] 関連：Ⅱ-2, Ⅲ-2
- ④ 個の考えが生きる追究場面の工夫 [個人追究の場面の確保]
- ⑤ 授業終末の子どもの姿のイメージ化 [評価の計画] 関連：Ⅱ-3, Ⅳ

上のページを参照し、英語科における「素材」，「目標や指導内容」を確認しました。2学期に扱う教科書題材を素材とし、グループに分かれて教材研究をすすめました。発表では豊富なアイディアにあふれた活動例が出され、充実した研修となりました。

受講者の感想：「授業のねらい，めりはり，見とどけの流れをあらためて考え直すことができました。最後の見とどけにどんな活動をもってくるかまで考えて初めて1時間の授業が成り立つことを実感しました。見とどけを意識して，1時間1時間の授業に臨みたいと思います」

<特集>「チャレンジしなのめ塾」

施設開放 “チャレンジしなのめ塾”

総合教育センター・生涯学習推進センターの施設開放事業「チャレンジしなのめ塾」が8月25日(土)に開催されました。晴天にもめぐまれ、小中学生や保護者の方々、地域の方々など、およそ350名の皆さんにご来場いただきました。



ようこそセンターへ!



人気のコーナーには行列も



野菜販売も好評でした



「楽しかったよ!!」

しなのめ塾



「放射線って何?」



霧箱を使って放射線の飛跡を観察

チャレンジ塾

スギ板のメッセージボード



電子工作「ガチャフラZ」きれいなイルミネーションです

涼しげな「キラキラお手玉」



「わあ! 見える!!」ケブラー式望遠鏡



小さな子にもできる動くおもちゃ作り

マナビィ共有講座(講演会)

書家で松本蟻崎高校教諭の大澤一仁(逸山)先生をお招きした講演会「ことばを通して心をつなぐ」。映像も交えた興味深いお話でした。そして3年生増澤真奈美さんの話に続き、あの「書道ガールズ」登場! 圧倒的なパフォーマンスが会場を沸かせました。



大澤先生と増澤さん

体験コーナー



プラ板キーホルダー作り
「何の絵がいいかな?」



花火の色の秘密に迫ります



デジカメとパソコンで
プリクラや3D写真も!



この大筆、何kgあるんでしょうか?



「えいっ!!!」
書道部は体育会系?



所内6か所をめぐる
ウォークラリー



アリやハチ、ヒマワリの花
電子顕微鏡で観察すると...



☆たくさんのご来場とアンケートへのご協力、ありがとうございました。